

# 2023年度事業計画

## 公益財団法人スペシャルオリンピックス日本

### I. 基本方針

当法人では、2021-2025 ビジョンに基づくアクションプランを策定し、多様な人々が生きる社会の実現を目指すために、アクションプランの実行フェーズとして、Be with all 事業の促進、持続可能な競技会・大会運営の実践、ユニファイドスポーツ等を推進し、新型コロナウイルスの感染状況を注視しつつ、ウイズコロナにおける多様な事業の推進に取り組みます。

また、当法人は 2024 年に設立 30 周年を迎えますが、次代につなげるため、新たな組織体制の構築、人材育成、事業のあり方や活動展開等を検証しながら、さらなる活動の充実を図ってまいります。

#### 【 アクションプラン 2021-2025 】

##### ① 事業

###### <イノベーション事業>

- ・“Be with all”の普及促進
- ・ICT を活用した事業推進

###### <スポーツ事業>

- ・スポーツ活動の充実
- ・持続可能な競技会/大会の開催

##### ② 組織

- ・組織全体の適正なガバナンスの確保と最適な新組織体制の構築
- ・国内 SO 組織の再定義

##### ③ 経営

- ・経営、財務資源の最適化
- ・人材マネジメント

#### 【SON のミッション、ビジョン、ゴール】

##### <ミッション>

知的障害のある人たちに年間を通じて、オリンピック競技種目に準じた様々なスポーツトレーニングと競技の場を提供し、参加したアスリートが健康を増進し、勇気を奮い、喜びを感じ、家族や他のアスリートそして地域の人々と、才能や技能そして友情を分かち合う機会を継続的に提供すること。

##### <ビジョン>

スペシャルオリンピックス日本は、知的障害のある人々とのスポーツを通じた様々なユニファイド活動により、多くの気づきと行動を生み出します。

ステイトメント: 多様な人々が生きる社会の実現を目指す

スローガン: 「Be with all」

**本ビジョンを推進する事業を「Be with all 事業」と称する。**

## II. 競技会開催事業

### 1. 2024 年スペシャルオリンピックス日本冬季ナショナルゲーム 準備及び開催

本大会は、アクションプランに基づく持続可能な競技会・大会開催に向けての取り組みとして、分散形式の開催となるが、開催地の地区組織、自治体等、関係団体との連携を図りつつ、今後のナショナルゲームのモデルとなるような大会づくりをめざし、準備を進める。なお、フロア競技については、施設の都合上、2023年の開催となる。また、本大会は「2025 年スペシャルオリンピックス冬季世界大会」への日本選手団選考を兼ねている。

#### 【概要】

#### 【大会名称】2024 年第 8 回スペシャルオリンピックス日本冬季ナショナルゲーム

(略称)スペシャルオリンピックス 2024 長野 / スペシャルオリンピックス 2024 北海道

開催期間: 2023 年 11 月 18 日(土)～2024 年 2 月 25 日(日)

※3 会場による分散開催

開催地: 長野県長野市ならびに北海道名寄市

参加規模(見込み): 10,300 名

- アスリート / 650 名
- 役員・コーチ / 350 名
- 大会役員・審判 / 300 名
- ボランティア / 2,000 名
- 観客 / 7,000 名

実施競技: 8 競技

- ・ 雪上競技: アルペンスキー、スノーボード、クロスカントリースキー、スノーシューイング
- ・ 氷上競技: フィギュアスケート、ショートトラックスピードスケート
- ・ フロア競技: フロアホッケー、フロアボール

※フロアボールは初開催

開催日程及び各会場競技

- ・ 2023 年 11 月 18 日(土)、19 日(日) ※選手団は 11 月 17 日(金)入り  
(競技) フロアホッケー/フロアボール  
(会場) ホワイトリング(長野県長野市)
- ・ 2024 年 2 月 11 日(日)、12 日(月祝) ※選手団は 2 月 10 日(土)入り  
(競技) アルペンスキー/スノーボード/クロスカントリースキー/スノーシューイング  
(会場) 名寄ピヤシリスキー場(北海道名寄市)
- ・ 2024 年 2 月 24 日(土)、25 日(日) ※選手団は 2 月 23 日(金)入り  
(競技) フィギュアスケート/ショートトラックスピードスケート  
(会場) ビッグハット(長野県長野市)

### 2. 2026 年開催予定の競技会・大会についての検討ならびに開催準備

2027 年夏季世界大会の前年である 2026 年大会の開催に向け、開催方法や開催地の検討等、準備を行う。

### Ⅲ. 国際大会への代表選手団の派遣事業

#### 1. 2023年スペシャルオリンピックス夏季世界大会・ベルリン 派遣

##### 【概要】

大会名称: 2023年スペシャルオリンピックス夏季世界大会・ベルリン

(英語表記: Special Olympics World Summer Games 2023)

開催地: ドイツ連邦共和国(ベルリン)

開催時期: 2023年6月13日～6月25日

- ホスタウンプログラム: 6月13日～6月14日

- 競技: 6月16日～24日

- 開会式: 6月17日(会場: Olympiastadion) / 閉会式: 6月25日(会場: Brandenburg Gate)

参加者 : 180の国・地域

-アスリート、パートナー 7,000名 -ボランティア: 20,000名

-メディア 2,000名 -ゲスト 4,000名ファミリー 6,000名

実施競技 : 20競技 / SO 日本選手団は 9競技に派遣

日本選手団派遣予定人数: 合計 73名

団長 1名、副団長 1名 / アスリート・パートナー 45名 / コーチ 20名 / 医師 1名 /

追加スタッフ(医師、看護師、アスレティックトレーナー、事務局) 5名

※選手団外においても、事務局が適宜帯同予定

競技	アスリート		パートナー		計	コーチ		
	男	女	男	女		男	女	計
競泳	2	2	0	0	4	1	1	2
陸上競技	2	2	0	0	4	1	1	2
バドミントン	1	1	0	0	2	1	1	2
バスケットボール (女子)	0	10	0	0	10	2	1	3
ボウリング	2	1	2	1	6	1	1	2
サッカー7人制 (ユニファイド男子)	6	0	5	0	11	2	1	3
卓球	1	1	1	1	4	1	1	2
テニス	1	1	0	0	2	1	1	2
馬術	1	1	0	0	2	1	1	2
計	16	19	8	2	45	11	9	20

競技	会場
競泳	Schwimm- und Sprunghalle im Europasportpark
陸上競技	Hanns-Braun-Stadion
バドミントン	Messe Berlin
バスケットボール(女子)	Messe Berlin
ボウリング	Bowling World
サッカー7人制 (ユニファイド 男子)	Maifeld
卓球	Messe Berlin
テニス	The Tennisverein SC Brandenburg
馬術	Reitclub am Olympiapark

日程	選手団活動
<b>2023 年</b>	
1 月 7 日(土)～1 月 9 日(月)	合宿①合同(東京都)
3 月 18 日(土)～3 月 20 日(月)	合宿②合同(愛知県)
4 月 28 日(金)～4 月 30 日(日)	合宿③チーム競技別(愛知県)
5 月 13 日(土)	コーチミーティング②
6 月 12 日(月)	渡航
6 月 13 日(火)～25 日(日)	ホストタウンプログラム、大会期間
6 月 27 日(火)	帰国

#### IV. 知的障害者の地域スポーツ活動振興の拠点となる地区組織等への支援事業

##### 1. 地区連絡協議会、全国事務局長会議、全国スポーツプログラム委員長会議(地区代表者会議)の開催、及びブロック会議の陪席

本年は、役員改選による新体制がスタートとする節目の年でもあり、2024 年に創立 30 周年を迎えることから、従来の代表者会議形式ではなく、地区組織に加えて、支援企業・団体等にもご参加いただき、創立 30 周年を記念する事業として開催する。

なお、その他会議(全国事務局長会議、全国スポーツプログラム委員長会議、上半期ブロック会議)についてはオンラインによる開催とし、これらの会議を通じて、SON の事業方針等を地区組織に共有するとともに、地区組織間の情報共有や意見交換を行う場として実施する。

- ・ 新役員体制、事業構想発表会並びに 30 周年記念式典  
 日程: 2023 年 3 月 26 日(日) 13:00～17:00 受付 12:30 予定  
 会場: ヒルトン東京お台場 (東京都港区台場 1-9-1)  
 内容: 地区連絡協議会(新体制の発表等)、交流行事等を予定  
 対象: 地区組織、支援企業並びに関係団体等
- ・ 全国事務局長会議、全国スポーツプログラム委員長会議、上半期ブロック会議(オンライン)  
 日程: 2023 年 4 月 22 日(土)
- ・ ブロック幹事定例会  
 SON と地区組織、ブロック間のコミュニケーションを図り、情報共有や意見交換を行う場として「ブロック幹事定例会」を開催する(5 月より隔月開催の予定)。

##### 2. 地区組織の認定及び更新、地区組織強化支援

全国 47 都道府県の SO 活動の拠点である地区組織の認定及び更新を行うとともに、スポーツ団体ガバナンスコード(一般団体向け)を踏まえた認定更新の基準等について検討を行う。

##### 3. スポーツプログラム(SP)委員会及び競技部会活動

正副 SP 委員長会議等の定期開催及び各競技部会の活動を通じて、国内のスポーツプログラムや競技会・大会事業等の充実と普及を図る。また、持続可能な競技会・大会事業の検討を踏まえ、具体的な競技会・大会運営計画の策定を行う。

#### 4. 助成

- ・地区競技会推進支援制度：本年は休止
- ・地域 SO 活動への特別助成：大会終了後、開催地での更なる SO 活動の発展を支援するためのナショナルゲーム主管地区に対する助成(SON・愛知、SON・北海道)を行う。
- ・SO 活動普及のための新たな助成制度の検討を進める。

#### V. 知的障害者のスポーツ参加及び健康増進推進事業

ユニファイドスポーツ®により、知的障害のある人(アスリート)と知的障害のないパートナーが共にスポーツに親しむことで、社会におけるインクルージョンの促進に寄与すると共に、ヘルシー・アスリート・プログラム(HAP)等のヘルス分野に加え、医療安全分野を充実させることで、知的障害者の包括的なスポーツウェルネスの向上をめざす。

##### 1. ユニファイドスポーツ®の普及【Be with all 事業】

##### 2. 多様なアスリートの参加促進

- ・女性アスリート、ジュニア、幼児等のアスリートの参加促進
- ・障害や加齢等による運動能力の低いアスリート向けの活動内容に関する検討

##### 3. ヘルスケアの啓発と実践

スポーツウェルネス委員会を新設(4月)し、従来のヘルス分野に加え、メディカル分野の充実を図る。また、ヘルシーコミュニティ事業として、HAPの地域モデル作り、Medfestの実践等を行う。

- ・ヘルシーコミュニティ事業の推進  
地域におけるHAPのモデル作り(地区組織、地域病院との連携等)  
Medfestの実施(世界大会派遣選手団等)

※ Medfest とは

HAPの1部門であり、メディカルフォームを基にスクリーニングを行い、アスリートがスポーツを安全に行えるかどうかの確認を行う。MedFestはアスリートの入会時のメディカルフォームおよび世界大会のエントリーフォームとしても採用されている。

##### 4. 医療安全の充実

専門委員会スポーツウェルネス委員会の設置を通じて、アスリートを始めとするSO関係者が安全にスポーツ活動を行えるよう医療安全面での充実を図る。

また、大学医学部やSO活動経験を持つ医療従事者との連携を図ると共に、次世代の人材確保や育成に繋げる。

#### VI. ボランティア、指導者、審判員等育成事業

##### 1. 指導者養成

- ・SON認定コーチやこれから認定コーチを目指す方を対象に各種研修会を開催すると共に、SOIが展開するグローバル・コーチ・エデュケーションシステム(ラーニング・ポータル)との連動及びCoach Development Plansの策定、実践を図る。また、専門機関や外部講師等との連携を通じて、研修内容の充実に取り組むものとする。

- ・ コーチクリニック  
ゼネラルオリエンテーション・アスリート理解(Web 会議システムによるオンライン講習)  
競技座学(YouTube 視聴によるオンデマンド講習)、競技実技(対面型講習)
- ・ 認定コーチ研修会
- ・ 全国トレーナー連絡協議会(研修含む)
- ・ コーチアカデミー(Coach Development Plans として SOI 助成金を活用し実施)

## 2. ボランティア育成

オンラインコーチクリニック等により、知的障害者スポーツ分野のボランティアの育成の機会を広げると共に、冬季ナショナルゲームを通じて開催地域でのボランティアの活動を促進する。

## VII. 広報・啓発事業

### 1. 広報・啓発

「Be with all」の世界観及び活動等を訴求するために、ユニファイド活動を中心にした広報活動を展開する。特に、オンラインを用いた支援企業やパートナー団体との取り組みや、アスリート自身が発信する広報活動を重点的におこない、スペシャルオリンピックスが持つメッセージと「Be with all 事業」の可能性を積極的に発信する。

#### 【Be with all 事業】

- ・ 「アスリートアンバサダー」をはじめとした、アスリート自身が発信する広報活動の充実
- ・ アスリートストーリー発表会(開催検討中)
- ・ 支援企業、パートナー団体と連携した広報活動、ユニファイドアクティビティ
- ・ 産官学モデルの大学との連携事業
- ・ Bリーグとの「Challenge with all」連携事業の促進と普及
- ・ オンラインを活用したイベントや広報活動
- ・ SON 各種事業を通じた広報活動

#### <アスリートリーダー活動の推進>

スポーツ活動以外においても、多様な機会を提供しアスリートの発信力を高め、アスリートリーダー活動の充実を図る

- ・ アスリートアンバサダー活動
- ・ その他オンラインを活用したイベント
- ・ アスリートリーダー委員会(仮)の新設準備

継続的なアスリートの参画を通じアスリートのエンパワーメントの促進を図るため、アスリートアンバサダー等を中心にした当事者による専門委員会の設置をめざし、本年は定期的なミーティング等(研修含む)を実施し、アスリートが主体的に会議参加や委員会活動に取り組むことができるよう準備を進める。

## 2. 資金調達・マーケティング(渉外活動)

事業活動を円滑におこなうための資金調達活動を行う。

また、知的障害のある人たちの社会参加への課題を共有し、既存支援企業とともに協働出来る事業を検討していくことにより、共生社会の促進につなげていく。

## 3. 外部連携

・教育機関等との連携によるユニファイドスクール活動の推進

学校や大学等と連携し、ユニファイド活動を推進することで共生意識への醸成に寄与する。

・スポーツ団体等との関係強化

推進競技の普及及び大会開催のために様々なスポーツ団体との連携強化を図ると共に、行政機関、各障害者団体、支援先等との連携をより一層深める。

## VIII. 調査研究事業

アクションプランの重要事項でもあるアスリートのアクセシビリティ並びにユニファイドスポーツ普及等の実態調査を実施する。また、設立 30 周年記念調査報告書(2024 年度発行予定)制作の準備を進める。

以上